

模擬投票で主権者意識

花巻市石鳥谷町北寺林の花北青雲高（小原和雄校長、生徒491人）で12日、選挙啓発授業が行われた。市選挙管理委員会（奥山隆委員長）が初めて実施。生徒らが模擬投票などを体験し、6月施行の18歳選挙権への理解を深めた。

花北青雲高・啓発授業



模擬選挙を体験し投票の流れに理解を深める花北青雲高の3年生

「大人の責任」も自覚



市選挙事務局長の小原克明副書記長が講師を務め、3年生約160人に選挙制度や投票の仕組みを解説。模擬投票では候補者3人が訴える「消費税を上げ高齢者の福祉を」「若者に希望を！子育てしやすい街へ」「消費税増税、地域経済の活性化」という公約や重点施策を示し、自らが考えて判断する主権者意識の重要性を訴えた。

実際の投票用紙を使って模擬選挙を体験した同校の選挙管理委員長田沼聖さんは「18歳選挙権に不安があったので勉強できてよかった。大人として責任ある一票を投じることができるようになりたい」と充実した表情。

堀田亮誠君は「選挙は遠いものだと思っていたが、ついに来たかという感じがした。自分でも情報を取り入れないと安易な投票になってしまう」と真剣だった。

小原副書記長は「自分たちの代表を選ぶため、選挙で権利を行使することは大切だ。なぜ選挙があるのかを考えるきっかけになればうれしい」と期待した。

